

君津市立北子安小学校

1 学校の紹介

(1) 教育目標

心豊かで かしこく たくましい 児童の育成
～やさしさ いっぱい やるき いっぱい わくわく 北小～

(2) 地域の概要

祖父母の代から、この地域に暮らしている家庭もあるが、新しくこの地域に居を構え生活している家庭もある。本校は地域と共に進める教育活動の推進をしている。地域の方々には各学年の諸行事等でボランティアとして子供たちに関わりを持ってもらいながら地域との結び付きを大切に継続している。また、社会福祉協議会との連携によるあいさつ運動を推進し、登下校時の安全確保も図っている。

2 学校図書館の現状

(1) 整備状況

学校図書館及び学校図書館前の廊下を活用し、本を配架している。

(2) 利用状況

毎週、各時間、全クラスに図書館が利用できる割り当てがされており、その割り当てに従って、学校図書館を利用している。また、昼休みには、子供たちが自由に読書ができるよう図書委員会の活動と連携をしながら学校図書館の解放も行っている。

3 司書教諭および図書主任等の教員の取り組み

(1) 校内組織と主な役割

本校では、学校図書館教育主任を1名、校務分掌として組織し、学校図書館活用の推進を図っている。主な役割としては、児童会活動としての図書委員会の運営の指導や補助。読書集会の運営準備、読書月間の取組等を行っている。

(2) 子供や教員に対する支援

ア 学校図書館の運営に関すること

学校図書館整備については、図書館司書補助員が学校図書館に配架して欲しい図書の購入希望についての相談や、季節に応じたお薦めの図書の紹介、学校図書館の装飾、図書の整理等を行っている。

また、学校図書館利用のガイダンスについては、年度初め、各学年の要望に応じて図書館司書補助員が行っている。

イ 読書推進活動に関すること

<定期的に行われている取組>

○読書集会

年1回開催。図書主任・図書委員会を中心に本の帯づくりを通してお薦めの図書を紹介したり、読書に意欲的に取り組んでいる児童を紹介する等、読書をより推進する活動を実施している。

また、図書館司書補助員や読書ボランティアの協力により、物語の劇の実施等も

行っている。

○読書月間

年2回開催。各学年の実態に応じて児童に読ませたい図書を各学年で選定し、意欲的に読書に取り組めるようにした「読書ビンゴ」を実施。図書ボランティアを中心とした読み聞かせも行っている。

また、本を介したコミュニケーションの一助として、「読書郵便」も開催し、同学年、異学年を交えた交流も実施している。

(3) 学習等に関する支援

ア 教科指導に関すること

本校では、国語の読書単元や、社会科や理科、生活科、総合的な学習の時間等での調べ学習で学校図書館を活用している。図書館司書補助員に相談して学習に必要な図書を選定し、集めてもらい、各教室に配架するなどして活用を図っている。また、地域の公共図書館とも連携し、学習に必要な図書を要望して集めてもらい活用もしている。

<実践例>

国語科ファンタジーの名作を活用した読書単元リテラチャー・サークル（小集団読書会）の実施 ※別紙指導案詳細

国語の教科書（教育出版）に掲載されている、安房直子氏の「きつねの窓」の教材を単元の導入として活用し、リテラチャー・サークルの手法を学びながら作品を読んだ。その後、ファンタジーの名作を児童が選び、リテラチャー・サークルを通してファンタジーの名作に浸る中で、主体的・対話的で深い学びの実現を図った。

イ 特別活動に関すること

<図書委員会の指導>

- ・図書委員会として5，6年の児童が、月に1，2回本の整理や、お薦めの本の帯やポップづくり等を行っている。また、読書集会等のイベントの準備や読み聞かせも行っている。
- ・常時活動として、昼休みに図書委員で分担をしながら本の貸出しを行っている。

ウ 生活科および総合的な学習の時間に関すること

<課題解決に向けた資料提供等について>

- ・1，2年生の生活科の生物等の資料や、3～6年生の各学年の課題に応じた資料の準備等について、学校司書補助員に相談し集めてもらい学習に活用している。
- ・コンピューターームのパソコンや、教室等でのプロジェクターや実物投影機などを活用し、資料を効果的に映し出したり、本では調べきれなかった情報を収集したりしている。

(4) 学校司書や公共図書館との連携

非常勤図書司書補助員が1名、週2～3日間程度、勤務をしている。主な業務は、各学級への読み聞かせ、図書の整理および紹介、図書館の環境整備等を行っている。

また、学習指導等で必要な図書の選定・準備や、毎年行っている読書集会に向けては、図書ボランティアと連携し、図書の紹介を兼ねた劇等の準備も行っている。

学校支援ボランティアとして、図書ボランティア「あぶっく」が数名おり、子供た

ちへの読み聞かせや、図書館の環境整備、読書集会での図書の紹介を兼ねた劇の発表等の支援をしている。

地域の公共図書館との連携については、学習に必要な図書を要望して集めてもらい活用もしている。また、移動図書館が月に1～2回程度来校し、児童への図書の貸出しも行ってくれている。

4 成果と課題等

(1) 成果

今年度も、図書主任を中心とした読書活動の推進により、児童の読書への興味関心を高めたり、読書量を増やしたりすることができた。読書月間では、図書主任の計画のもと、児童の読書意欲を喚起する内容を企画し、図書委員会や学校司書補助教員、図書ボランティアと連携し、充実した読書集会を開催することもできた。

学習指導では、学校図書館、公共図書館との連携を図書主任が推進した。各学年で国語や生活科、理科、社会科、総合的な学習の時間などで必要な図書を流通システムで集めてもらい活用を図り、充実した読書関連学習を行うこともできた。

(2) 課題

読解力の低さが本校でも見られる。本を読むことは思考することである。学校図書館、公共図書館を更に活用し、様々なジャンルの図書に更に触れさせ、本を読む中で思考を促す学習を位置付けながら読解力の向上につなげていきたい。

第6学年2組 国語科学習指導案

1 単元名 **味わおうファンタジーの世界** **～リテラチャー・サークルでファンタジー読書会！～**

2 単元の目標

- ファンタジー作品に興味を持ち、進んで読書をしたり、自分の考えを交流したりしようとする。
(学びに向かう力、人間性等)
- ファンタジー作品の読書を通して、登場人物の関係を図示したり、印象に残った表現や出来事を整理してまとめたり、自分の経験と関係付けて捉えたりすることができる
(知識及び技能 情報の整理)
- リテラチャー・サークルにおける役割分担に基づき、自分の考えを持ちながら優れた叙述や表現の工夫、作品の特徴に着目しながらファンタジー作品を読んでいる。
(思考力・判断力・表現力等 C 読むこと E 精査・解釈)
- リテラチャー・サークルで読み取った内容の交流を通してファンタジー作品の魅力や読書の意義を実感するとともに、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
(思考力・判断力・表現力等 C 読むこと カ 共有)

3 単元の評価規準

学びに向かう力 人間性等	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等
ファンタジー作品に興味を持ち、進んで読書をしたり、自分の考えを交流したりしようとしている。	ファンタジー作品の読書を通して、登場人物の関係を図示したり、印象に残った表現や出来事を整理してまとめたり、自分の経験と関係付けて捉えたりすることができる。 (情報の整理)	<ul style="list-style-type: none"> ・リテラチャー・サークルにおける役割分担に基づき、自分の考えを持ちながら優れた叙述や表現の工夫、作品の特徴に着目しながらファンタジー作品を読んでいる。 (C 読むこと E 精査・解釈) ・リテラチャー・サークルで読み取った内容の交流を通してファンタジー作品の魅力や読書の意義を実感するとともに、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (C 読むこと カ 共有)

4 単元について

(1) 本単元で行う言語活動

本単元では、リテラチャー・サークルの手法を用いて、一人一人が異なる読書方略を適用しながらファンタジー作品を読み、グループで交流しながら本の魅力を分かち合う「小集団読書会」という言語活動を行う。

リテラチャー・サークルとは、1900年代から2000年代に米国で盛んになった読書指導法である。リテラチャー・サークルは、優れた読み手が無意識的に用いている読書方略を、一人ずつ役割として分担し、数人組のグループ内で交代しながら意識的に読ませるものである。その

ため、様々な読書方略をバランスよく定着させ、読解力や思考力を高めることが可能な読書指導であると言える。

- ①自分の経験と結び付けながら読む
- ②優れた表現を味わいながら読む
- ③疑問を持ちながら読む
- ④情景を思い浮かべながら読む 等

具体的な学習の流れとしては、

- (1) 指導者がブックトーク等を通して、児童に読ませたい本を紹介する。
- (2) 児童は紹介された中から自分の読みたい本を選ぶ。
- (3) 同じ本を選んだ児童で4人程度のグループをつくる。
- (4) グループごとに、

- ①人物係 (登場人物について調べながら読み、言葉や図を使って説明する)
- ②表現係 (面白い表現や面白い出来事をたくさん探す)
- ③イラスト係 (心に残った場面を一か所以上選び、簡単なイラストにする)
- ④思い出し係 (自分の経験を思い出し、本の内容と関係づけたり比べたりする)

等の役割を決める。この係は毎時間ローテーションされ、各人が1回ずつそれぞれの係を行いながら一冊の本の読書を進める。つまり一冊の本を4回の範囲に分けて読み、毎回、自分の役割の立場からの読みを通じた考えを述べ合い、読書を通じた交流を図る学習を行うというものである。

リテラチャー・サークルは「小集団で読む」ことを軸に学習を行っていく。小集団読書は、一斉学習と比べて一人一人の児童の参加度を向上させることができ、一人一人の児童の実態に拠ることを可能とする学習形態の可能性を秘めている。また、「小集団で読む」ことのメリットとして次のような点が挙げられる。

- 1 一人一人に話す機会がもたらされる →本を読み、想像したり考えたりしたことを述べ合う。
- 2 会話の為の無理のない場が作られる →適度な場の設定による、対話的な学習の実現。
- 3 適切な読書レベルの本を見付けやすくする →好きな本を手にし、読書に親しむ状況を作る。
- 4 読む本を更に選ぶことができるようになる →読書を介しての主体的な学びの実現。

これらの点は、学習指導要領のキーワードでもある「主体的・対話的で深い学び」を実現するエッセンスを十分に含んでおり、読書活動を推進することができる効果的な学習と考える。

今回、リテラチャー・サークルの言語活動を中心とした読書単元を通して、「ファンタジー」というジャンルの読書に親しませ、読書の楽しさを更に実感して欲しいという思いと、役割に沿った様々な角度からの読み方を通して、考える力と読む力の向上を図りたい。

(2) 本単元で付けたい力

本単元では、小学校学習指導要領第5学年及び6学年【思考力・判断力・表現力等 C 読むこと】の言語活動例「イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動」に基づいた学習として、ファンタジー作品を読み、リテラチャー・サークルという読書会を行うという言語活動を構想した。

この言語活動を通して、小学校学習指導要領第5学年及び6学年【思考力・判断力・表現力等 C 読むこと】の「エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」「カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること」の指導事項との関連を図り学習を行っていく。

読書は自分の知識を増やし、想像力を高め、豊かな心や物事を深くを考えられるようになるなど、思考力等の育成に関わる多くの要素を含んでいるといえる。実際に学力・学習状況調査でも読書を普段からよくしている子どもの学力が高いことがデータからも検証されている。

今回、ファンタジー作品を用いてリテラチャー・サークルという読書単元を行うことで、読書の楽しさやファンタジーというジャンルの魅力を味わい、役割に沿った様々な角度からの読み方を通して、思考を働かせ、読む力と考える力を育成したい。

まず、第一次では、リテラチャー・サークルという「小集団読書会」を知ることを主眼とする。

ここでは、リテラチャー・サークルの交流方法を「台本型手引き」を用いながら役割演技を通して行い、リテラチャー・サークルを実感的に理解することができるようにする。また、教室に君津中央図書館から借りたファンタジー作品を集めた「6-2ファンタジー文庫」を設け、ファンタジー作品に親しんだり、多読ができるような読書環境も整備していく。

次に第二次では、ファンタジーというジャンルの導入として、教科書で用いられている安房直子の「きつねの窓」を共通教材として用い、リテラチャー・サークルを各4人のグループで行う。

ここでの係は、前述した通り、①人物係、②表現係、③イラスト係、④思い出し係で行う。

「きつねの窓」のテキストを4回分の範囲に分け、係をローテーションしながら4回で読み、リテラチャー・サークルを実際に体験しながら覚えることを主眼とする。

また、二次の最後に実際にリテラチャー・サークルをやってみて、

- ①用いた係はファンタジーを読むのに適切だったか、
- ②役割に沿った読書を通してどのような読み方を身に付けたか

等の点を振り返り、違う係に変更した方が良い場合は、ファンタジーの読みに沿った係に変更する等の改善を行い、三次の学習に活かせるようにする。

更に三次では、各自が読みたいファンタジー作品の読書を通して、リテラチャー・サークルを実践的に深めることを主眼として行う。ここでは、教師が厳選したファンタジー作品を各4冊ずつ揃え、ブックトークを行う。ここでのブックトークは、クラスの児童の読書の実態をある程度意識して、「この児童にはこの本を読んでほしい」といった考えを持ちながら意図的にブックトークを行い、グルーピングを仕組んでいく。

読む本が決まったら、各グループごとに、選んだ本に基づきながら読む範囲を4回に分けたり、係分担を決めたりするなどの準備を進め、リテラチャー・サークルをスタートする。

リテラチャー・サークルは1単位時間の殆どの時間を児童同士の交流に費やすことになる。また児童が大人の力に頼らずに協働的にテキストから意味を作り出すことを重視するので、毎時間の導入での目標設定と、終わりでのメタ認知を重要視する必要がある。

そこで、課題設定の場面では、

- ①前はどのような力を付けたのか
- ②前時の役割はどのような役割で、どのような学びがあったのか
- ③今日のリテラチャー・サークルで意識するのはどのような点か

等の視点を持たせる。また、振り返りの場面では、

- ①困った場面はどのような場面だったか
- ②本時ではどのような読み方を知ったか
- ③友達との交流を通して、学んだことや言われて嬉しかったことはどのようなことか

等の視点を指導者が声かけするようにする。

上記に挙げた目標設定と振り返りを重視することで、児童の思考を促し、働かせながら一回一回のリテラチャー・サークルを行い、主体的な読書活動の実現と、児童自身が自らの読みの向上的変容を意識できるように丁寧に学習を進めていきたい。

(3) 継続してきた学習と児童の実態 (6年2組 男子9名 女子8名 合計17名)

児童は朝の北小タイムでの10分間読書を4月から継続している。読んでいる本を見みると、「5分後に意外な結末」等のショートショート作品や、「ぼくらの7日間戦争」などの角川つばさ文庫、ポプラポケット文庫、その他のライトノベル系等の小説を読んでいる児童がクラスの6～7割程度。その他は、名探偵コナンやワンピースなどの文庫版などを読んでいる。

また、右記にある「MY BOOK REPORT」という読書記録を2学期からつけている。これは、校長

氏が考案したもので、①人物関係図、②あらすじ、③この本のお薦め度等の内容で構成されたものである。この読書記録は、「登場人物の関係を把握する力」「物語の構成を読む力」「簡単なブックレビューを書く書評力」等を養うことができ、且つ手軽に実施できるので継続をしている。

MY BOOK REPORT

小学校
年 組 NO
氏名

■書名
■著者
■出版社
■出版年

■登場人物 (性格や役割を中心に)

■あらすじ (主人公が変わったことを中心に)
 物語のはじまり

 事件 (中心となるできごと)

 物語のおわり

■この本のおすすめ度

■その理由 (おすすめする理由やおすすめしない理由を)

物語の学習では9月に、いぬいとみこ氏の『川とノリオ』を通して物語の構造をつかみながら、各自が「作品の心」(自分がその本を読んで受け取ったメッセージ)を読む学習を行ってきた。

今回は、安房直子氏の『きつねの窓』を入り口に、ファンタジーという新たなジャンルの読書を開拓し、リテラチャー・サークルの言語活動を主体とした読書単元を通して、ファンタジー作品特有の優れた叙述や表現の工夫、作品の特徴に着目しながら、更に読書の楽しみを広げ、日常的に本を手にする習慣を身に付けさせたい。

5 指導計画（12時間扱い）

次	時	主な学習活動と内容	指導上の留意点（○）評価（※）	学習材
一 次	1	<p>○リテラチャー・サークルとは何かを知り、学習の見通しを持つ。</p> <p>○台本型手引きを基にした役割演技を見てリテラチャー・サークルの交流の仕方を学ぶ。</p>	<p>○「リテラチャー・サークル」という読書会の方法を提示し、単元のゴールを伝え、学習に向けての意欲付けを行う。</p> <p>○教師が作成した「台本型手引き」を用いて4人で実際にリテラチャー・サークルを行い、読書会の交流の仕方を教える。</p> <p>○ファンタジー作品のコーナーを設置し、いつでも本が手にとれるようにする。</p> <p>※リテラチャー・サークルという読書会の方法について知り、意欲的に取り組もうとしている。（観察・発言）</p>	<p>学習 計画表</p> <p>台本型 手引き</p>
	5	<p>○ファンタジーの特徴について知る。</p> <p>○安房直子『きつねの窓』の物語を4つの場面に分けリテラチャー・サークルで読む</p> <p><4人グループを作る></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>①人物係 ②表現係 ③イラスト係 ④思い出し係 全員：疑問係</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>1時間で一つの係を行いながら読む。係をローテーションしながら全員が4つの係を経験し、4時間で読む。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>毎時間の振り返りを活かして、リテラチャー・サークルを行う。</p>	<p>○架空の世界への入り口や魔法等の非現実的な事象が起こる世界の話ファンタジーというジャンルとして確認する。</p> <p>○4人グループを作り（17人の為、一つの班は5人）①人物係、②表現係、③イラスト係、④思い出し係の分担を決める。係のローテーションをしながら『きつねの窓』を4時間で読み、毎時間、読書を基にした交流をさせる</p> <p>○毎回、役割に応じた予読（事前に読む）を基にして交流させるようにする。</p> <p>○毎時間、本時の目標設定と振り返りを行い、グループのリテラチャー・サークルのブラッシュアップを図りながら実施できるよう助言や掲示物等の工夫を図る。</p> <p>※登場人物の関係や、心に残った表現、イメージしたイラスト、自分の経験等と結び付けて考える等の係の内容をワークシートにまとめている。（ワークシート）</p> <p>※その時間の自分の係を基にして読んだ読みや考えを交流しようとしている。（話し合い・発言）</p> <p>※意欲的にリテラチャー・サークルを行っている。（話し合い・表情・発言）</p>	<p>学習 計画表</p> <p>教科書</p> <p>役割 シート</p>
	5	<p>○教師の行うブックトークを聞く</p> <p><選書予定の本></p>	<p>○教師が精選したファンタジー作品のブックトークを行い、意欲付けをしながら本</p>	<p>学習 計画表</p>

二 次	精霊の守り人 上橋菜穂子 ハリーポッターと賢者の石 K・ローリング 魔女の宅急便 角野栄子 君の名は 新海 誠 ダレン・シャン ダレン・シャン モモ ミヒヤエル・エンデ 2分間の冒険 岡田 淳 ○自分たちの選んだファンタジー作品を用いてリテラチャー・サークルを行い、作品について交流する。	を選ばせる。その際、児童の読書力を考慮しながら助言も行うようにする。 ○同じ本を選んだメンバーでグループを作り、役割等の計画を立てさせる。 ○予読や読書の時間をなるべく確保し、各自がしっかり読み込みながら、毎回のリテラチャー・サークルに参加できるように助言を行う。 ※意欲的にリテラチャー・サークルを行っている。(話し合い・表情・発言) ※優れた表現や叙述、読んでの自分の考え等をワークシートに書き込み、交流をしている。(ワークシート・話し合い)	ファンタジー作品の本 役割シート
三 次	1 ○リテラチャー・サークルを通して学んだ事や、ファンタジー作品の魅力を振り返る。	○学習全体を振り返り、学んだ事を、「リテラチャー・サークル成功のための10か条」にまとめる。 ○読んで味わったファンタジー作品の良さをみんなで発表し合い共有する。 ※リテラチャー・サークルの学習を通して学んだことやファンタジー作品の魅力を振り返りメタ認知しようとしている。 (ワークシート、発言)	学習計画表 ワークシート

6 本時の指導 (8/12)

(1) 目標

○役割を分担して読書し、各自の読みを交流しながら楽しく読書している。

(学びに向かう力、人間性等)

○優れた叙述や表現の工夫、ファンタジーの特徴に着目して読み、自分の考えをまとめ伝えることができる。(思考力・判断力・表現力等 C 読むこと 工 精査・解釈)

(2) 展開

時配	学習内容と活動	○指導上の留意点 ※評価	資料等
予読	○予め自分たちで決めた範囲を読み、「役割シート」に各自が役割に応じて読んだ考えを記入しておく。	○朝の読書タイム、給食準備中、隙間の時間等、既にある読書の時間を活かせるように声かけをする。	役割シート
2	○前時を振り返り、本時のめあてを確認する。	○学習計画表を用いて、前時までの内容を振り返り、本時の見通しを持たせる。	学習計画表
リテラチャー・サークルを通して、更にファンタジーを読み込もう			

20	<p>○役割シートや本に付けてきた付箋を確認し、話題として挙げたい部分を黙読する。</p> <p>○人物係から順に、グループに話題を提供させ、交流を開始する。</p> <p><役割></p> <p>人物係：人物の特徴や関係をつかむ。</p> <p>表現係：心に残った面白みのある表現を見つける。</p> <p>イラスト係：印象に残った情景を絵に表す。</p> <p>思い出し係：内容と自分の経験等を関係づけ繋がりを見つめたり比べたりする。</p>	<p>○予読して読み取った内容を想起させ、各自が話題として挙げたい部分の確認及び準備をさせる。</p> <p>○教師側が役割シートを事前に確認し、気になる児童については声かけや支援を行い、充実した交流ができるように配慮する。</p> <p>○話題が尽きたり、時間が足りなくなった場合の対応について共通理解をさせる。</p> <p>○話し合いが上手く進められないグループを中心に支援し、どうしたら上手く進められるかを一緒に考えながらアドバイスをする。</p> <p>※役割を分担し、視点を持って読書し読み取ったことを話し合いながら楽しく読書をしている。(観察)</p>	付箋 役割シート ファンタジーの本
10	<p>○本時の学習を振り返り、学んだことを「リテラチャーサークルの振り返りシート」にまとめる。</p>	<p>○身に付けた読み方や、係の役割について振り返らせながら自分の考えをまとめさせる。</p> <p>※優れた叙述や表現の工夫、特徴に着目して読み、自分の考えをまとめることができたか。(ワークシート)</p>	ワークシート
10 3	<p>○学級全体に提供したい話題や疑問等について発表し合い、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで解決できなかった問題 ・グループに留めておくのはもったいないほど感動したエピソード ・学級全体に広げたい友達の発言 <p>○グループごとに次時まで読んでくる範囲を確認する。</p>	<p>○良い読み方や良い作品の良さの共有の仕方をしているグループには、積極的に発言をさせ、より良いリテラチャー・サークルの行い方や作品の良さの分かち合い方を全体に伝えるように声かけする。</p> <p>○読む範囲と係の役割を確認させる。</p>	